

1 題材名 音楽の構成を工夫した旋律をつくろう

2 目標

- (1) 音楽の構成に関心をもち、構成を生かしてまとまりのある旋律をつくる学習に主体的に取り組む。 (音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 動機のリズムをもとにつくった旋律を、反復、変化、対照などの構成を生かして、まとまりのある旋律を創作するための思いや意図をもつ。 (音楽表現の創意工夫)
- (3) 反復、変化、対照などの構成を生かしてまとまりのある旋律をつくるために、必要な技能を身に付けて旋律をつくる。 (音楽表現の技能)

3 指導にあたって

(1) 題材について

この題材は学習指導要領解説音楽編（平成29年度告示）の第2学年及び第3学年の内容(1) A表現(3) 創作の「創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること」、イ(4)「音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること」、ウ「創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくりするために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。」を実現するための題材である。

(2) 生徒の実態 (31名) 創作課題の評価

令和元年*月*日

	調査項目	調査結果 (名)
1	8小節以上の単旋律をつくり、五線譜に表すことができる。	27
2	続く感じや終わる感じを意識したまとまりのある音楽となっている。	6
3	形式や反復、変化などの構成を工夫してつくっている。	2

既習の創作課題の評価から、8小節くらいの単旋律をつくることは80%以上の生徒ができる。しかし、旋律の流れの中で、続く感じや終わる感じを意識してまとまりのある音楽をつくることは、20%以下である。さらに、形式や反復、変化などの構成を工夫した旋律づくりのできる生徒は6%にも満たない。

そこで、既習の鑑賞曲、L. ベートーヴェンの「交響曲第5番ハ短調」で学んだ動機のリズムを指定し、音程に注目した旋律づくりをすすめたい。リズムの変化は一部分とし、音程の変化による反復や変化、対照などの構成を意識した旋律をつくれるようにしたい。さらに、既習のソナタ形式や主題の提示、展開、再現についても触れることで、音楽のまとまりについて理解を深めたい。また、グループで交流しながらリコーダーで音を確認し旋律づくりを行うことで、一人では表現できない、旋律の関わりや重なり方についても構成を工夫するようにしたい。

4 学習と評価の計画 (本時は4時間扱いの第3時)

次	学習内容	時間	観点の評価			主な評価規準
			関	創	表	
1	・反復、変化、対照など構成の仕方を理解する。 ・グループで動機のリズムを組み合わせて12小節のリズム旋律を創作する。	1	○			・反復、変化、対照などの構成に関心をもち、それらを生かしてリズム旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。
2	・グループでリズム旋律に音程を入れて旋律をつくる。 ・リコーダーで試しながら旋律をつくる。【本時】	2		○	○	・リズムや音程の変化から生じる雰囲気を感じ、反復、変化、対照などの構成を生かした旋律をどのようにつくるかについて思いや意図をもっている。 ・反復、変化、対照などの構成を生かした音楽表現をするために、必要な技能を身に付けて旋律をつくっている。
	・つくった旋律をリコーダーで発表する。	1			○	・反復、変化、対照などの構成を生かした音楽表現をするために、必要な技能を身に付けて旋律をつくっている。

5 本時の学習

(1) 目標

グループごとにつくった旋律をリコーダーで試しながら、構成を生かしてまとまりのある旋律をつくるために必要な技能を身に付ける。

(2) 本校研究テーマ「新しい時代を生き抜くために必要となる真の『学力向上』をめざして」～学び合い（交流）の活動を通して～との関連

グループごとにつくった旋律をリコーダーで試しながら、構成を生かしてまとまりのある旋律になっているか聴き合ったり、工夫したりする。

(3) 準備・資料

- ①ワークシート ②リズム・音符カード ③まなボード ④音階表 ⑤アルトリコーダー
⑥タブレット ⑦拡大譜

(4) 展開

○研究テーマ及びリーダーインミーとの関連

時間	学習内容・活動	形態資料	指導上の留意点・評価
5分	1 アルトリコーダーを吹く。 ・模倣奏「まねしてください」 ・「エーデルワイス」	一斉 ⑤	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、音符の長さ、タンギングなどに気を付けて吹くようにする。 動機のリズムの模倣では、カウントをとって八分休符を意識できるようにする。 旋律づくりのリコーダー奏でも使えるような運指やタンギングを取り入れる。
10分	2 本時の学習課題を確認する。 構成を工夫して、まとまりのある旋律になっているか確かめながらつくろう。	一斉 ⑦	<ul style="list-style-type: none"> 拡大譜を提示し、既習の反復、変化、対照などの構成を全体で確かめる。 全体の前で、音符カードを並べ替えながら構成を確かめることで手順を示していく。 まとまりのある旋律にするための条件を音と言葉で示していく。 まとまりのある旋律にするためには何をしたら良いか、音符を変化させるなどして手順を示す。
25分	3 旋律をつくる。 ・音符カードを並べ換えながら試行錯誤する。 ・リコーダーで吹いた旋律をタブレットで録音して構成を確かめる。 ・旋律が完成したら五線譜に記録する。	グループ ①～⑥	<ul style="list-style-type: none"> 音符カードを並べ替えながら構成を考えることで、簡単に変更できるようにする。 録音ブースで録音することにより、録った音を聴きやすくする。 音を重ねる時に難しくならないように、動機のリズムの小節内は、音程を変化させないようにとアドバイスする。 <p>○グループで活動を行い、記譜や楽典の苦手な生徒も旋律づくりに参加できるようにする。</p>
5分	4 中間発表をする。 ・2グループの発表を聴き、構成やまとまりを参考にする。	一斉 ③⑤⑥	<p>(評) まとまりのある旋律をつくるために必要な技能（反復、変化、対照などの構成を生かした音の組み合わせ方、記譜の仕方）を身に付けて旋律をつくっている。 (技能) 【観察・ワークシート】</p> <p>< Aの生徒への手立て > フレーズ（まとまり）の最後の音を経過音にするなど、より完成度を高めるよう助言する。</p> <p>< Cの生徒への手立て > 構成について再度確認し理解を促す。</p>
5分	5 本時の学習を振り返り、次時の学習課題を確認する。	個人 ①	<ul style="list-style-type: none"> 次時の学習について伝え、次の学習への関心をもてるようにする。